

勤務医部会だより

プレコンセプションケア



幹事 牛田貴文
(名古屋大学 産婦人科)

近年、「プレコンセプションケア(preconception care)」という概念が注目されています。「プレ」は前、「コンセプション」は受胎や妊娠の意味で、「妊娠前からのケア」という意味になります。これは妊娠を計画している、あるいは将来妊娠の可能性がある女性（およびそのパートナー）に対し、妊娠前から健康状態を評価・改善することで、妊娠・出産および次世代の健康をより良いものにしようとする包括的な医療アプローチです。2019年に施行した成育基本法に基づき、成育医療等基本方針にプレコンセプションケアが取り上げられており、本邦でもプレコンセプションケア体制整備に向けた動きが少しずつ始まってきております。

プレコンセプションケアは産婦人科領域の話題と思われるがちですが、実際には内科（特に、循環器内科、腎臓内科、内分泌内科、血液内科など）、精神科、泌尿器科、整形外科、さらにはプライマリ・ケアを担うすべての診療科と深く関係しています。妊娠前の健康状態や基礎疾患の管理状況が、妊娠合併症や将来の母児の健康に大きな影響を及ぼすことが明らかになってきているからです。例えば、高血圧、糖尿病、肥満、腎疾患、自己免疫疾患、精神疾患などは、妊娠中の合併症リスクを高めるだけでなく、胎児発育や早産、児の将来の生活習慣病リスクにも関与します。また、喫煙、飲酒、栄養状態、運動習慣、服薬内容といった日常診療で扱われる要素も、妊娠転帰に直結します。これらは決して妊娠が成立してから初めて介入すべき事項ではなく、むしろ妊娠前からの調整が重要です。また、遺伝性疾患を持つ女性およびそのパートナーに対しても、妊娠前からのカウンセリングの重要性は言うまでもありません。

産婦人科以外の診療科の先生方が日常診療の中で担える役割は決して小さくありません。例えば、若年～生殖可能年齢の女性を診察する際に、「将来妊娠を考える可能性があるか」という視点を少し持つだ

けで、血圧や体重管理、薬剤選択、生活指導の意味合いが変わってきます。催奇形性のある薬剤や妊娠中に注意が必要な治療について、早期に産婦人科と連携することで、患者にとって安全で計画的な妊娠が可能になります。妊娠が判明してから対応するのではなく、妊娠前の段階で情報提供や他科連携ができることが、プレコンセプションケアの大きなメリットです。

また、プレコンセプションケアは妊娠を勧める医療ではありません。妊娠を希望しない、あるいは今は考えていない女性に対しても、自身の健康とライフプランを理解し、主体的に選択できるよう支援することが本質です。月経異常、慢性疾患、メンタルヘルスの問題などを適切に評価・治療すること自体が、結果として将来の妊娠リスク低減につながります。少子化や女性のライフコースの多様化が進む現代において、妊娠・出産は産婦人科だけのイベントではなく、医療全体で支えるべきライフイベントとなっています。プレコンセプションケアは、診療科の垣根を越えた連携を促進し、女性の健康を長期的視点で支えるアプローチになります。

日常診療の中で、「将来、妊娠を考える可能性はありますか」「妊娠の際に注意が必要な治療があることをご存じですか」といった一言が、患者さんにとって重要な気づきになります。必要に応じて産婦人科につなぐことで、より計画的で安全な医療が実現します。こうした取り組みが、すべての診療科の先生方が関われるプレコンセプションケアの第一歩であると考えます。

なお、愛知県において総合的な周産期医療体制を整備し、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりの推進を図るため、愛知県周産期医療協議会を開催しています。愛知県周産期医療協議会の事業の一つに、妊産婦の診療について必要な情報を提供するために相談員を配置し、地域の産婦人科以外の診療科の医師からの相談に応じる相談窓口を設置しています。是非ご活用いただけますと幸いです。

愛知県周産期医療協議会事務局

名古屋大学医学部附属病院 産婦人科

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65番地

TEL：052-744-2264

E-mail：sec-shusanki@med.nagoya-u.ac.jp

<https://nagoya-u-obgy.jp/shusanki/>

